

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

その3 各支部の副支部長さんにきく

動労千葉の底力をみせつけてやろう

千葉転支部 白井敏行

反動中曾根の「戦後政治の総決算」と称する軍事大国化、改憲攻撃と真向から対決し、「三里塚」と「国鉄」を基軸に、全力で闘いぬいた一年でありました。

歴代の自民党政府と国鉄当局が生み出してきた国鉄「赤字」を口実とした大量首切りと大合理化攻撃は、動労「本部」革マルの裏切りにもかかわらず、全国の国鉄労働者の憤激を呼びおこしています。

千葉運転区においても、労務管理を主眼とした指導助役の二人体制をはじめとし、管理者の集中的添乗、主要駅ホームでの監視等、あらゆることを口実に当局の意のままに従わせようとやっきになっております。

今、国鉄職員の三人に一人が首を切られようとしている状況の中において、十九年間、国家権力の礼束と暴力に屈せず、非妥協・実力闘争で闘い続けている反対同盟農民に学ぶその精神を労働運動の中に貫流させるために、「3・25」、「10・10」

三里塚現地集会へそれぞれ七一名、六四名の大動員を実現してきたところであります。

軍拡への道へ突き進む日帝の一連の攻撃が、われわれを虫ケラのように扱い、国鉄労働運動の解体を目的にかけられていることを見るならば、なんらちゅうちよすることなく、この決戦にうって出、動労千葉の底力をみせつけてやるうではありませんか。

成田縮小を阻止する道は

団結力しかない

成田支部 高木倮一

ここ一二年の間、国鉄の赤字の原因があたかも労働者のわれわれにあるかのような、マスコミを総動員した「ヤミ・カラ」キャンペーンを

はじめとする組合攻撃、また同調する国鉄当局は経営改善に基づく大合理化攻撃とあわせて職場規律の厳正等々、労働運動の解体にやっきとなり増々厳しく攻め込んできている。

労使の関係のみならず、労・労の中ですらお互いにすつきりしない今日この頃、わが動労千葉は闘いの道をきり拓き、組合員一体となり英知を結集し、現場生産点では日々闘いへの学習会等に鋭気を示し、増々厳しくなる現状打破のために何が大事であるかを見極め、オルグに明け暮れし八五年を迎えようとしている。

今後はより厳しく情勢を受けとめ少しでも組合員の不安を解消することが重要である。「分割・民営化」のための合理化政策の促進、そのありで余剰人員の増大・・・

「三本柱」との闘いはすでにはじまり、成田運転区も「60・3」時点で千葉転支部への可能性が大であるが、われわれ成田支部組合員は本部より情報を素早くキャッチし、支部全体で廃止反対闘争への日程を即取

り組み、闘いを展開した。成田駅前での一般住民への訴え、地区労定期大会での協力要請文の提出等を行う一方、支部は組合員への充分なるオルグを行い闘いを開始した。

いま、われわれ組合員は奮い立ち、縮小等は全く認めず、力量大なる団結力で阻止しなければならぬと思う。私自身、少くとも「60・3」で縮小ではなく、二年先、三年先へ持ち越しさせることがわれわれ執行部の最大の目的であり役目であろう。

これを貫徹するには、何度もうかが団結力しかない。組合員の皆さんに、あーもしてやりたい、こうもしてやりたいと思えば思う程、気ばかりあせり、苦しい日々である。世の中思うようにいかないのが常といえども、執行部は少なくとも地に足をしっかりとつけ、日暮支部長を先頭に団結力をより一層増して、ふり返ることより前をみて今後の闘いをすすめることが肝心であろう。

3.25 10.10 五割動員 貫徹



三里塚と国鉄の決戦は完全に煮つき、重なり合った。反動の根はひとつ。

電の元凶=中曾根を倒せ、何度でも「5割動員」を平気でやれる力—これが勝利への唯一のカギだ。



84動労千葉③



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!